

受領No.1524

情報科学を事例とした RRI 概念の拡張についての研究

代表研究者 得能 想平 大阪大学大学院 情報科学研究科 特任助教
共同研究者 村田 正幸 大阪大学大学院 情報科学研究科 教授
伊藤 京子 京都橘大学 工学部情報工学科 教授
藤井 翔太 大阪大学 経営企画オフィス 准教授



A study on the extension of RRI using information science as a case study

Representative Sohei Tokuno, Osaka University, Graduate School of Information Science and Technology, Specially-appointed Assistant Professor
Collaborator Masayuki Murata, Osaka University, Graduate School of Information Science and Technology, Professor
Kyoko Ito, Kyoto Tachibana University, Faculty of Engineering Department of Computer Science, Professor
Shota Fujii, Osaka University, Office of Management and Planning, Associate Professor

研究概要

とりわけ DX で言われるように、今後の社会のあり方を激変させる可能性をもつ工学系の研究者、特に、申請者が所属する情報系の研究者においては、社会の要請を受け入れるだけでなく、社会を創造する役割を担っている。本研究は、RRI の考え方の拡張を通じて、社会を創造する情報科学者のあり方を考えるものである。

幅広いアクターの参加、応答可能性、フィードバックを通じて、アカデミアと社会の多様なステークホルダーとのコミュニケーション増進を目指す「責任ある研究とイノベーション」(=RRI) の考え方は、社会における科学研究の現代的な理念を追求するものである。その一方で、RRI に対しては、前提とされる科学者像が、社会的責任が欠如したものに固定されているという批判がある。本研究は、情報科学者の個人の価値観のあり方に注目し、RRI に見られる科学者像を拡張することを目指す。

科学者像を拡張するにあたって、本研究は、ポストモダン思想ないしネオプラグマティズムといった現代哲学の人間像を用いる。①人間の個性性は認めるが私秘性を認めない、②価値を前提としない人間の探求活動を認めない、このような特徴を併せ持つポストモダン思想ないしネオプラグマティズムの人間像は、個人や集団の多様な価値観を肯定したうえでの、真理や社会のあり方を問うという現代的な問題関心の下で構想されたものであり、新たな科学者像を考えるうえでの適切な基盤を提供すると考えられる。本研究は、新たな情報科学者像を提示するための文献調査と、実際に活動する情報科学研究者とのディスカッションを通じて、RRI の考え方を批判的に検討することからなる。